

## 〈村長室 イン트로〉

今年も又、音楽の友だち、仕事の友だち、色んな人に助けられて、暮れていきます！

有名になったFIA／地球人村のタイカレーと餃子に加えて、ルタのタンドリーチキン、エドのピザ、ミサカのハンバーグがブレイクしました！年のせい、病気のせいにして、四方八方不義理だらけですが、富士山のふもと千福が丘ばかりでズルイと、言う声もあり、師走の東京でも、ご挨拶をして年を越えますのでゆるして下さい。(12月20日)

今、東京は、自転車がビュンビュン走って危ないので、お出かけになる方は、気を付けましょう。

今年は、70年目の戦争の話して、持ち切りでした。

杉田二郎の“戦争を知らない子供たち”を聞きました。

ナマで聞いたのですが、後味のいいステージでした。

で、考えたんですが、実は、僕は戦争を知っている世代なんです。

DDTを頭からかぶって、戦争孤児も、傷痕軍人も知っています。

人間が人間でなくなるほど、あさましくなることも、

実は、子供心に細胞で学んだような気がします。

三つ子の魂です。

知らないふりをして生きてきましたが——、もう正念場です。

知らんぷりしても、バレちゃいます。

でも、いったい僕に何ができるでしょう？——と思案に控えています。

野坂昭如、小澤昭一、青島幸男、焼け跡派大先輩たちは皆逝ってしまいました。

僕は、とりあえず防空壕じゃなくて、井戸を掘ることにします。



先日、玄関をガラツと開けて、

人様の家にパンをかじりながら上がってきた金髪の若者がいた。

**我が家は、開放的な日本家屋である。**

**となりには、世界最小のパン屋ができた。**

金髪君は“タブレット純”と言うらしい。

(知る人ぞ知る今どきのナイスガイ？だと後で聞いた…)

“あんた誰？”と聞いたたら、

一曲歌ってくれた！

なんとマヒナスターズである。

あんまりうまいんで、こっちがビックリした。

解散まで、マヒナスターズで歌っていた張本人だった。

その時、我が家は、たまたま、実は

ガラスの悪い焼酎好きが集まり、盛り上がっていた！

その只ならぬ音響に金髪青年は中をのぞいていたのだ。

野本晴美（これ又、天下の才覚）が

歩き始めた一才の赤ん坊を、畳に転がして、

国籍不明のピアノを弾いていたのだった。

吾輩は、大木に蟬が止まっているような格好で、

ウッドベースを弾いていた。

子供の運動会に参加したお父さんみたいに、気持ちだけは走っているのだが、

足が前に出していない。

手が動かない気持ちだけのウッドベースのランニングであった。

「あのキャンパスフォークの作家、金子詔一さんですネ！」——と

タブレット純はへんなことに詳しい。

(実はそこをつかれると本人はかなり恥ずかしい…?)



フォークソングがやってくる——

演歌／艶歌でもなく、軍歌でもなく、  
文部省唱歌でもない？讃美歌でもない、ジャズでもない？

フォークソングと言うと、なんだかハイカラに聞こえるから不思議だ。  
自慢じゃないが、これは「俺達の発明」である。

俺達は、自分の言葉で、渾身の思いを込めて、街角で歌ったのである。  
俺達って誰？

もはや年金族に達した、オジサン、オバサン達である。  
なつかしいよね！——と年金族。

この手作りの歌声を聞きにかけつける「横丁のお若いもん」も  
興味津々で、のぞきにくる。

なんてったって、教科書に載っている歌も登場するのである。

**12月20日、中野の金子邸、午後1時30分集合**

**年末宝くじを一人一枚買ってお集まり下さい。**

金子一雄の正面玄関からでも、

AYAさんの勝手口からでも入場可。

宝くじは没収します——。

当たったら、我が家に井戸を掘ります。

〈タイトル〉俺達にも明日がある！



**特別出演 青木まりこ、**

笑わせながら心にしみる歌を届けてくれる下町のオバチャンである。

一緒に歌うコーナーもあり。

サイドマンもファーストクラス。(秘密)

問い合わせ、連絡先

Eメール：y.kaneko@fha2400.com

FAX：03-3386-6327